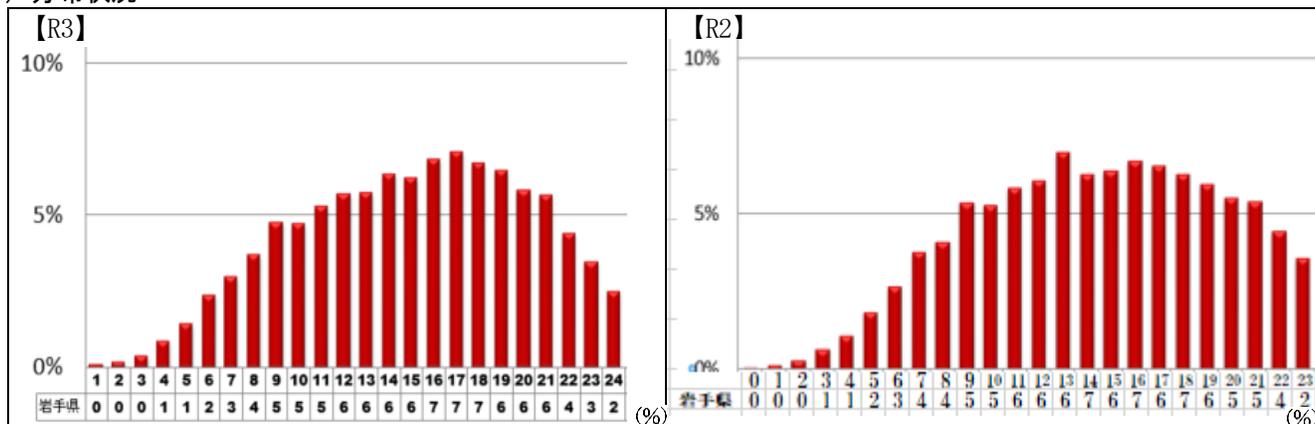


授業改善の手引 中学校第1学年英語

1 調査結果

(1) 分布状況



○ 問題数は昨年度から1問増の24問。正答数の最頻値は17問、平均正答率は59%です。

(2) 1年生 CAN-DO リストの項目別正答率

1年生到達目標 (CAN-DO LIST)		正答率
聞くこと	① 簡単な質問や指示等を聞いて、内容を理解することができる。	62.8
	② はっきりと話されれば、短い会話などを聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。	86.1
	③ はっきりと話されれば、日常的な話題(学校行事、自分の好きなこと)について、概要を捉えることができる。	96.0
読むこと	① 日常生活の身近な単語や簡単な文を理解することができる。	84.8
	② 日常的な情報収集(広告やパンフレット、予定表等)について簡単な英語で書かれた文を読んで、必要な情報を読み取ることができる。	64.5
	③ まとまった内容(手紙や紹介文等)の英文を読んで、大まかな概要を読み取ることができる。	55.6
	④ 登場人物の心情や意味・内容が表現されるように音読することができる。	—
話すこと やり取り	① 自分の事や身近な話題について即興で簡単な問答することができる。	—
	② 事実や自分の考えを整理し、簡単な語句を用いて、問答することができる。	—
話すこと 発表	① 自分自身や身近な人々について、考えや気持ち、事実などを、相手意識をもって簡単な英語で伝えることができる。	—
	② 関心のある事柄について、キーワードやメモを頼りに即興で話すことができる。	—
書くこと	① 英語の正しい語順や書き方の決まりに合わせて、正しく文を書くことができる。	29.4
	② 自分の考えや気持ちなどを整理し、文と文のつながりに注意して、簡単な英文で書くことができる。(例)自分自身、家族・友達等の身近な人、お気に入りのものについてなど。	62.8
	③ 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりに注意して、簡単な英文で書くことができる。(例)自分自身、家族・友達等の身近な人、お気に入りのものについてなど。	47.2

(3) 結果概要

- はっきりと話された英文から必要な情報を聞きとること、概要を捉えることは概ね良好です。(大問4, 5, 6)
- 日常的な話題を読み、その内容を理解できる傾向にあります。(大問9, 10)
- 正しい語順で英文を書くことや場面に応じた英文を正確に書くことに課題が見られます。(大問14~16)
- 100語前後のまとまった英文(説明原稿、ホームページ)の内容理解に課題が見られます。読み取る内容に応じた指導(必要な情報の読み取り方、概要や要点の捉え方)が必要です。(大問11, 12)

2 指導のポイント

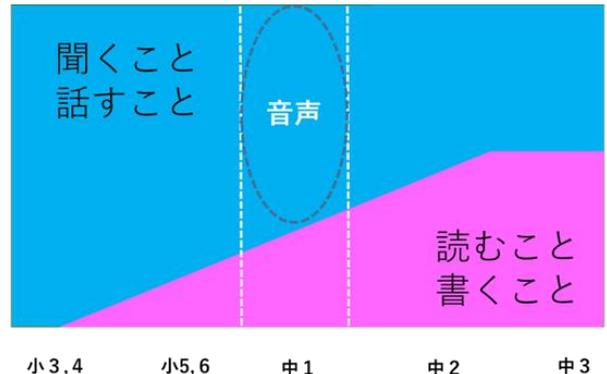
学びの接続・連続性に目を向ける

高等学校卒業時を見据えた英語教育のストーリーは、小学校3年生から既に始まっています。しかしながら、外国語学習への意識は、右の通り小・中の接続期にかけて急激に低下する傾向が見られます。

右イメージ図の通り、小学校中学年では音声を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習の動機付けを高めた上で、高学年から発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、教科としての学習を行っています。したがって、中学校、特に1年生の入門期では音声面に着目し、小学校で学んだ語彙や表現などについて、意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れるよう様々な言語活動を工夫することが必要です。県内の中学校では、小・中の接続・連続性に目を向けた指導が広がり始めています。

中1		中2	
R1 新入生学調(4月)	肯定回答	R2 県学調(10月)	肯定回答
小学校の外国語活動で学習したことを、中学校の学習でもいかしていけると感じますか。	94%	英語の勉強は好きですか。	59%
中学校の英語の授業を楽しみにしていますか。	84%		

小・中接続を見据えた領域の指導バランス (イメージ)



「Small Talk」を生かした「やりとり」を授業に取り入れてみましょう

小学校高学年では、2時間に1回程度「Small Talk」を行っています。「Small Talk」は、あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりする言語活動です。5年生は指導者の話を聞くことを中心に、6年生はペアで伝え合うことを中心に行っています。

R3 中1 英語確認調査の結果から、中学校の授業では意味のある文脈の中でのコミュニケーション活動をより一層推進していく必要性が明らかになっています。特に1年生の1学期は、生徒の視点に立ち、音声面を中心に小学校での学びが活かされる場面を設定してみましょう。

小学校の Small Talk (例)

6年生 What sport do you want to watch?

S1: What sport do you want to watch?

S2: I want to watch soccer.

S1: Soccer? That's nice. Why?

S2: I like soccer. How about you?

<小学校外国語活動・外国語ガイドブック>

これを生かし、中学校では次のような活動を取り入れている指導例があります。

- Interaction(教師⇄生徒)(生徒⇄生徒)
- 教科書本文の内容理解度を教師による発問ややり取りを通して行う活動

入学して来る生徒の視点に立ち、次年度に向けて中学校入門期の指導について同僚と話題にしてみましょう。

R3 中1英語確認調査結果から

5 聞いて把握した内容について、適切に応じることができる。

<放送原稿>

正答率 63.7%

I enjoy school lunch every day. I like fish and vegetables very much. We sometimes have a Bento day. Which do you like, school lunch or a Bento?

- 1 I eat fish. (13.4%)
- 2 I don't cook curry and rice. (2.7%)
- ③ I like school lunch. (63.7%)
- 4 I make a Bento every day. (19.5%)

9割の生徒は、単語を聞き取ることはできていますが、誤答した生徒の多くは文脈の中で質問の内容を把握することができなかったものと考えられます。

7(2) 疑問詞を用いた疑問文を正しく書くことができる

正答率 15.8%

A:(1 do you 2 what 3 like 4 subject)?

B: Oh, I like math. It's interesting.

最も多かった誤答: What do you like subject? (70.1%)

Do you like~? は正しい語順にできるが、文全体の構造や対話の意味を踏まえ、単に What を文頭に置くと判断したものと考えられます。

3 主な小問について

(1) 昨年に引き続き正答率が低く、今後も県全体で取り組む必要がある項目

大問12 まとまった英文(ホームページ)から必要な情報を読み取ることができる

ア 問題の概要

12

中学生のようこ (Yoko) とようこの家にホームステイをしているジュディ (Judy) が、国際ピクトグラム協会 (International Pictogram Association) のホームページ (homepage) を見ながら話しています。次の会話文中の () に入る最も適切なものを、あとの1～4の中から1つ選び、その番号を書きなさい。

正答率 49.8%

イ 誤答分析

まとまりのある英文から必要な情報や概要を捉える力に課題が見られます。特に、本調査問題のように対話文を通すなど、複数のタスクが重なると正答率が下がる傾向にあります。

誤答のうち約3割の生徒は、本文の大まかな概要を捉えることができなかつたと考えられます。また、残りの約1割の生徒はホームページで示される図 (ピクトグラム) が示す英語が想起できなかったものと考えられます。

大問7(2) 疑問詞を用いた疑問文を正しく書くことができる

ア 問題の概要

7 次の(1)と(2)の対話文について、()内の語(句)をすべて使い、意味が通るように番号を正しい順番に並びかえなさい。なお、文の最初にくるべき単語でも、最初の文字を小文字で表しています。

(2) A : (1 do you 2 what 3 like 4 subject) ?
 B : Oh, I like math. It's interesting.
 正答率 What subject do you like? (15.8%)
 主な誤答例 2 1 3 4 What do you like subject? (70.1%)
 1 3 2 4 Do you like what subject? (7.7%)
 1 3 4 2 Do you like subject what? (1.7%) ※誤答は抽出解答300人中の割合

イ 誤答分析

分構造は[What + 名詞]で始まる疑問文の形です。誤答例を見ると、「Do you like ~?」の部分は正しい語順で並びかえることができますが、文全体の構造や対話の意味を考えずに「What」を文頭に置くという判断で解答したものと推測されます。また、小学校において音声では慣れ親しんでいる[What + 名詞]の疑問文の形ですが、中学校入学後に文字として認識して表現や文法に触れることや意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることが不足していたと考えられます。

(2) 生徒のつまずきに着目し、授業改善につなげる必要がある項目

大問5 聞いて把握した内容について、適切に応じることができる

ア 問題の概要

5 英語の授業で外国語指導助手のマリア (Maria) 先生から質問をされます。彼女の質問に対して、最も適切な応答を、その後に放送される1～4の中から1つ選び、その番号を書きなさい。

- 1 I eat fish. (13.4%)
- 2 I don't cook curry and rice. (2.7%)
- ③ I like school lunch. (63.7%)
- 4 I make a Bento every day. (19.5%)

放送原稿

I enjoy school lunch every day. I like fish and vegetables very much. We sometimes have a Bento day. Which do you like, school lunch or a Bento?



イ 誤答分析

9割以上の生徒がマリア (Maria) 先生から話された内容について、単語 (fish, school lunch, Bento 等) を聞き取ることができていますが、そのうち約3割の生徒が質問に対して適切な解答を選択することができませんでした。原因としては、質問の内容を把握することができなかったことや、聞きとれた単語のみから判断して解答したことが考えられます。